

「オープンでフラットな議論」のポンチ絵に関する説明要領

(H30.7.4)

(基本説明)

今年度、広島高裁管内全体で、「オープンでフラットな議論」の推進に取り組んでいくこととしたい。

「オープンでフラットな議論」の具体的なイメージについては、別添のポンチ絵のとおりである。「自由・率直に話し合おう!」「いろんな視点から検討しよう!」という共通の土俵に立って、一般職員、管理職員、幹部職員といった職員の立場にかかわらず(裁判部では裁判官も含まれる)、自由・率直に意見を述べ合い、いろんな視点から検討し、知恵を出し合うことを通じて、より良い結論を出すというイメージである。例えば、共有フォルダの管理の在り方など(各職場の実情に応じた具体例を用いる。)、各職場等で何かを話し合う場面において、より良い結論を出すためには、各自が「オープンでフラットな議論」を心掛け、自由・率直に意見を述べ合い、いろんな視点から検討し、知恵を出し合うことが有用であると考えている。

オープンでフラットな「議論」というと、少しハードルが高く感じるかもしれないが、必ずしも、かっちりとした「意見」を述べる必要はなく、ポンチ絵記載のとおり、気になる点を述べたり、思いつきの考えを述べたり、質問をしたり説明を求めたり、意見というほどでなくてもちょっとした考えや固まっていない考えを述べたりすることも、意見交換を活性化させ、より良い結論を出すために有用であると考えます。そういう意味では、この取組は、単に「議論」の場面だけでなく、より一層自由に活発なコミュニケーションや対話を促進することを目的としている。各職場において、より一層自由に活発なコミュニケーションと対話を促進し、風通しの

よい職場環境を整えることは、極めて重要なことである。

「オープンでフラットな議論」については、会議や打合せの場面にとどまらず、日々の執務において、上司と部下の間、裁判部では裁判官と書記官等の間、あるいは同僚同士で対話をする場面にも、いつでも自然に実践することを意識してもらいたい。

オープンでフラットな議論

より良い結論



自由・率直に話し合おう！
いろんな視点から検討しよう！